

基本理念～目指すべき人間像～

学ぶ意欲にあふれ、
心豊かでたくましく
夢に向かって羽ばたく子どもたち

郷土への愛着と誇りを持ち、
高い志を掲げ、
日本や高知の未来を切り拓く人材



第2期 教育等の振興に関する施策の大綱 (第2次改訂版)



県では、教育等の振興に関する基本理念、基本目標、それらを実現するための総合的な施策を定めた「第2期教育等の振興に関する施策の大綱」を令和2年3月に策定しました。

大綱の計画期間：令和2年度から令和5年度（4年間） 令和3年3月 第1次改訂
令和4年3月 第2次改訂

高知県 11月1日は高知県教育の日「志・とさ学びの日」で



高知県の教育の現状 (知)

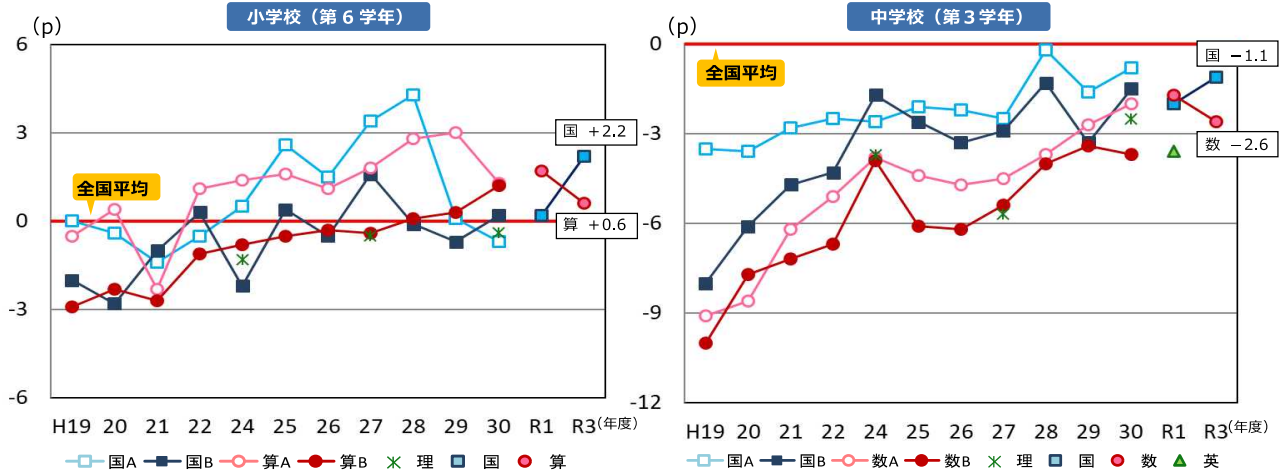


児童生徒の学力の状況 <小・中学校>

- 小学校は、近年、国語の知識・技能の定着に伸び悩みがみられましたが、令和3年度の調査結果では改善し、引き続き全国上位を維持しています。
- 中学校は、国語・数学とも改善傾向にあり、令和3年度の調査結果では全国平均まであと一步という状況です。

■ 全国学力・学習状況調査結果

◇ 本県と全国の平均正答率の差 (教科、問題別)



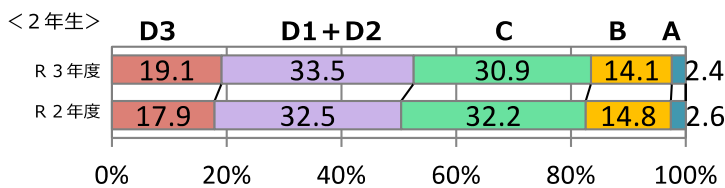
※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施
 ※令和元年度から、A問題(主として「知識」に関する問題)とB問題(主として「活用」に関する問題)を一体的に問う調査に変更



生徒の学力・進路の状況 <高等学校>

- 令和3年度の学力定着把握検査結果では、2年生のD3層の生徒の割合は19.1%となっており、前年度より増加しています。
- 進路未定で卒業する生徒の割合は減少傾向にあり、平成25年度の11.0%から令和2年度は4.6%と半減しています。

■ 学力定着把握検査結果 (2年生1月の3教科総合の結果)

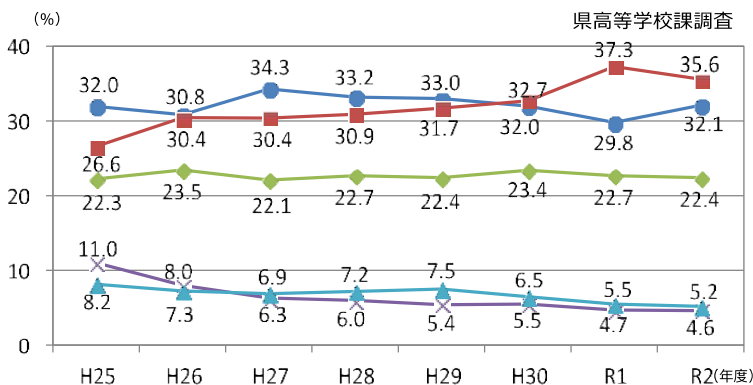


※数値は学力定着把握検査I (29校) の結果 (その他の7校では別検査を実施)
 ※評価尺度である学習到達ゾーンの内容は右表のとおり

学力定着把握検査Iの評価尺度

学習到達ゾーン	進路選択肢	
	進学	就職
A	国立大合格レベル	上場企業などの大手の就職筆記試験や公務員試験に対応できるレベル
B	公立大学等合格レベル	就職筆記試験における平均的評価レベル
C	私大・短大・専門学校一般入試に対応可能なレベル	就職筆記試験に必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をすうえで支障が出ることが多い (D1・D2)
D	上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞する学生が多い	筆記試験が課される企業では不合格になることが多い (D3)

■ 公立高等学校卒業生 (全日・定時・通信制) の進路状況



※就職率・進学率は、公立高校卒業生全体に占める割合
 ※進路未定には、具体的な進学・就職先が未定、パート・アルバイト等の生徒も含む



高知県の教育の現状（徳・体）



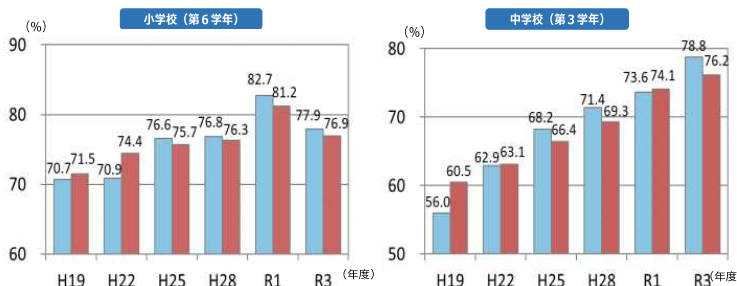
児童生徒の意識や態度、生徒指導上の諸課題の状況

- 自尊感情や夢・志の項目については、令和元年度以降、特に小学校において肯定的な回答の割合が減少傾向にあります。
- 生徒指導上の諸課題については、中途退学率は低減傾向にありますが、不登校児童生徒数の増加など、厳しい状況が続いています。

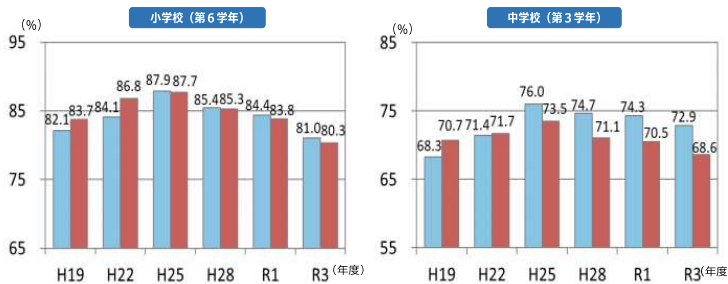
■ 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果抜粋

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施
※各質問に対し肯定的な回答を行った児童生徒の割合

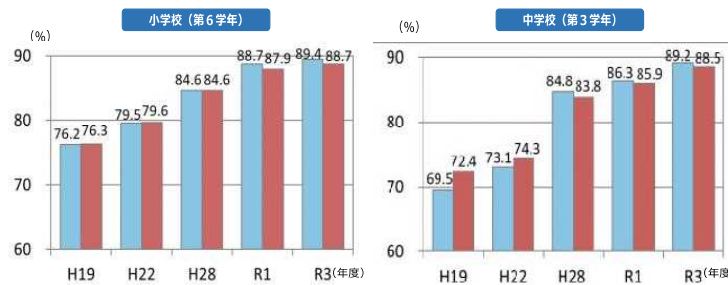
◇ 自分にはよいところがある



◇ 将来の夢や目標を持っている

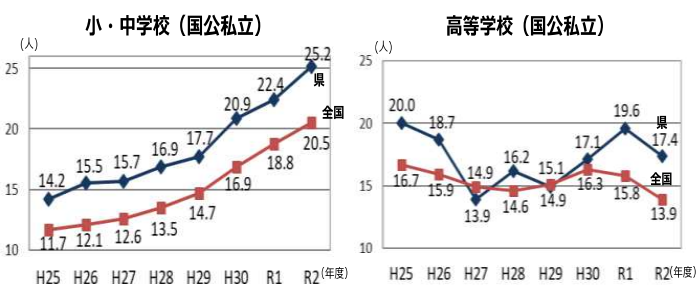


◇ 人が困っているときは、進んで助けている



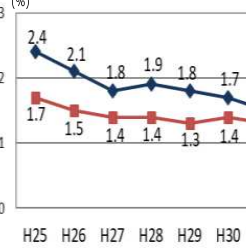
■ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

◇ 不登校 1,000人あたりの不登校児童生徒数



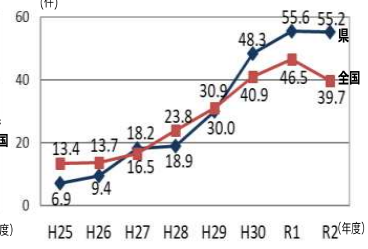
◇ 中途退学

高等学校（国公立）



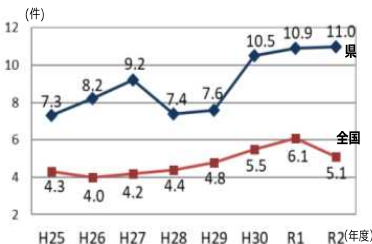
◇ いじめ 1,000人あたりの認知件数

小・中・高・特別支援学校（国公立）



◇ 暴力行為 1,000人あたりの発生件数

小・中・高等学校（国公立）



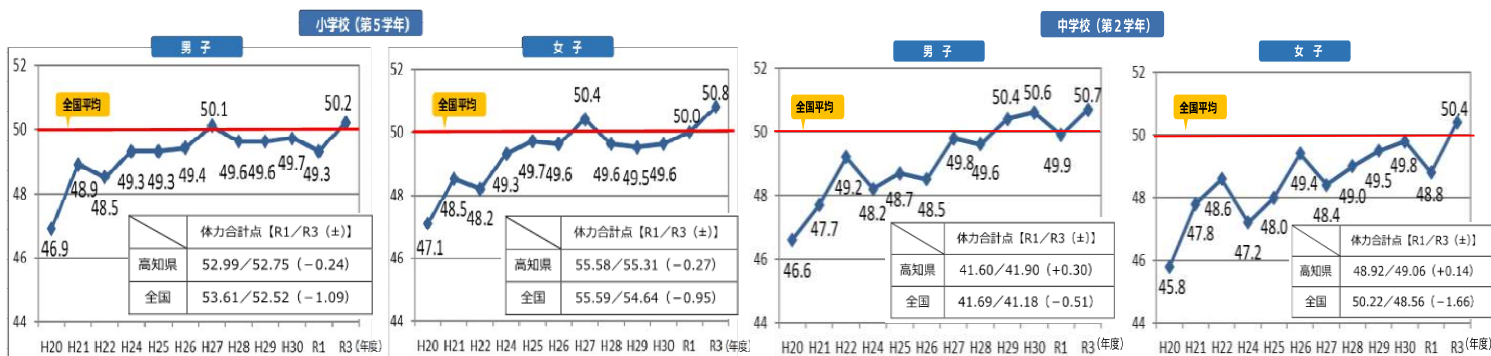
児童生徒の体力・運動能力の状況

- 平成20年度の調査結果では、小・中学校、男女ともに全国最低水準にありましたが、その後は改善傾向がみられます。令和3年度は、全国の体力合計点が低下している中、調査開始以降初めて小・中学校の男女ともに全国平均を上回りました。

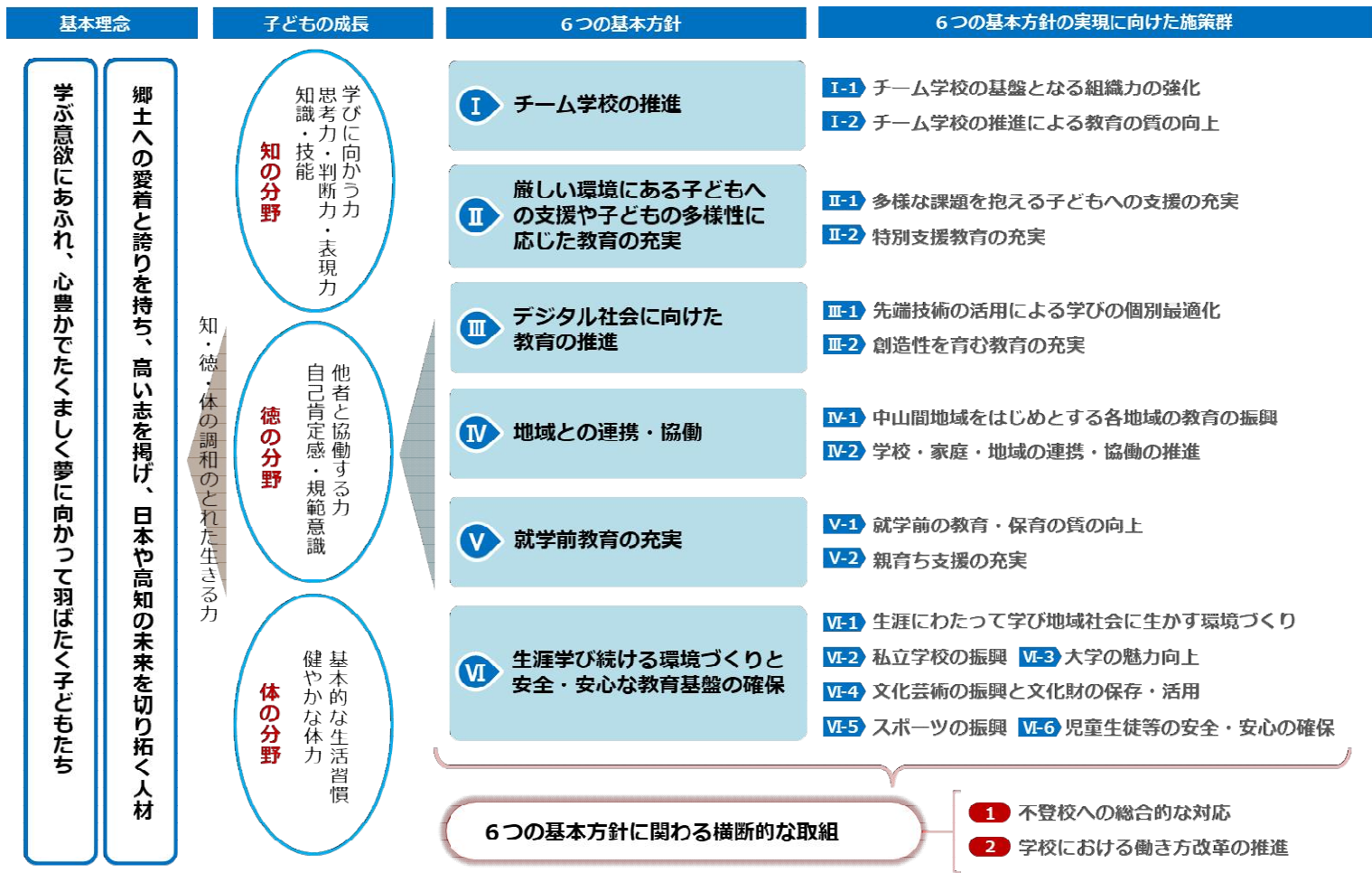
■ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

◇ 体力合計点（8種目の実技の総合点）の推移

※平成23年度は東日本大震災、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査未実施
※数値 表：体力合計点 グラフ：T得点（全国平均＝50）



基本理念（目指すべき人間像）の実現に向けた施策の体系図



第2次改訂のポイント

◆急激に変化する時代（予測困難な時代、Society5.0等）の中においても、子どもたちが知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を身につけ、持続可能な社会の創り手となることができるよう、本県の教育課題解決に向けた施策を強化します。

1 質の高い教育の実現に向けた組織的な取組強化

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるため、学校の組織力を一層強化します。

3 多様な子どもたちへの支援の充実

- ヤングケアラーなど、多様な子どもたちを誰一人取り残すことがないよう、専門人材や関係機関と連携・協働して社会的自立に向けた支援を強化します。
- 子どもたちの安全・安心の確保のための取組を強化します。

5 学校における働き方改革の加速化

- 学校教育活動の充実のため、全教員が時間外在校等時間の上限を遵守できる職場環境になるよう、働き方改革の総合的な取組を加速させます。

7 グローバルな視点での教育の推進 グローバル化

- グローバルな視点を持って、地域の将来や産業振興を担う人材を育成するための取組を推進します。

デジタル化

2 デジタル技術を活用した学習スタイルの充実等

- 1人1台タブレット端末や学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」のさらなる活用促進など、デジタル技術を活用した教育の充実・強化を図ります。

4 不登校への重層的な支援体制の強化

- 学校における不登校未然防止に向けた対応をさらに充実させるとともに、学校・スクールソーシャルワーカーと市町村児童福祉部署等との相互連携による支援体制を強化します。

6 学びをつなげる環境教育の推進

グリーン化

- 持続可能な社会の創り手となる子どもたちの資質・能力を育成するため、環境教育に係る取組を強化します。



基本目標の達成に向けて、これまで2年間の施策の実施状況を踏まえ、第2期教育大綱及び第3期基本計画の取組をさらに充実・強化

基本方針

I

チーム学校の推進

- 学校の組織力を高めながら、教員同士がチームを組んで主体的に学び合うことにより組織的に授業力の向上や生徒指導の充実を図ります。
- 外部の専門家や地域の人材の力も活用して、学校の目標の実現や課題の解決を図ります。

■ 学校の組織マネジメント力を強化する仕組みの構築

- ・ 主幹教諭から校長までを対象とする学校組織マネジメントと人材育成を柱とした体系的な研修プログラムの充実
- ・ 学校訪問による学校経営や授業改善に関する指導・助言
- ★ 「小学校教科担任制・組織力向上アドバイザー」による訪問指導
- 「学校支援チーム」による訪問指導
- ★ 小・中学校全学年での少人数学級の実現（R4～ 中学校35人以下）等

「チーム学校」の体制の強化

校長のリーダーシップのもとで組織マネジメントが効果的・効率的に推進される組織体制の確立

専門家や地域人材の力も活用し組織的・協動的な取組の推進

■ 教員同士が学び合い高め合う仕組みの構築

- ★ 義務教育9年間を見通した「小学校教科担任制」の導入による、小中連携の強化ときめ細かな指導の推進
- ＜小学校教科担任制の主な例＞
 - ① 専科教員による授業（加配）
 - ② 学年内や学校内での授業交換
 - ③ 中学校教員による授業（兼務）
- ・ 全ての学校において、学校種や学校規模に応じたOJTの仕組みを構築し、教員の指導力の向上や授業改善等に向けた組織的・協動的な取組を推進



基本方針

II

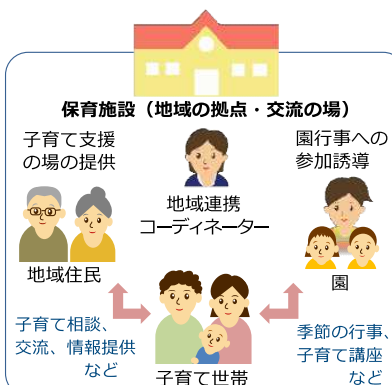
厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実

- ヤングケアラーや医療的ケア児など、多様な子どもたちを誰一人取り残すことがないように、専門人材や関係機関と連携・協働して社会的自立に向けた支援を強化します。
- 発達障害を含めた全ての障害のある子どもたちの自立と社会参加に向けて、多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図ります。

就学前から高等学校まで切れ目のない支援の実施

■ 保育所・幼稚園等と家庭や地域等との連携の充実

- ・ 園庭開放や子育て相談など、子育て経験者と子育て世帯等が交流できる場づくりの推進



■ 社会的自立に向けた就学前から高等学校までの切れ目のない教育の充実

- ・ 多様なロールモデルの提示やキャリア・パスポートの効果的な活用の仕組みづくりなどキャリア教育の充実
- ・ 中学校の段階から、進学・就職時の経済支援制度や各高等学校の学習活動の情報提供など進路指導の充実
- ・ SSWと市町村児童福祉部署との相互連携による支援体制の強化
- ★ (ヤングケアラー支援等)



特別支援教育の充実

保育所・幼稚園等、小・中・高等学校

■ 障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実

- ・ 教職員の専門性・指導力の向上
- ・ 通級による指導・支援の充実（高等）
- ・ 組織的な指導・支援体制の充実 等

特別支援学校

■ 特別支援学校における多様な教育的ニーズへの対応の充実

- ・ ICT機器を日常的に活用した指導・支援の充実
- ★ 看護職員の専門性向上のための研修や巡回看護師の配置等による医療的ケア児の支援の充実 等

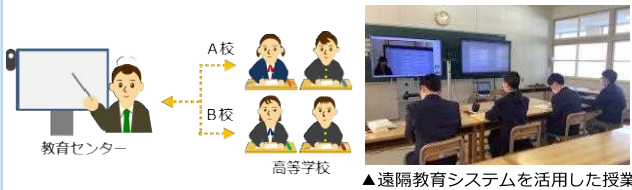
デジタル社会に向けた教育の推進

- 先端技術を有効に活用し、学習機会の地域間格差の解消のほか、1人1台タブレット端末や学習支援プラットフォームの活用により、「学校の新しい学習スタイル」の確立を目指すとともに、教員のICT活用指導力を高めます。
- 急速に進むデジタル社会に対応し、学んだ技術と創造性を発揮して社会で活躍できる力を育みます。

先端技術の活用による学びの個別最適化

■ ICTやAI（人工知能）等の先端技術の活用

- ・ 遠隔教育システムを活用し、教育センターを配信拠点として、全ての小規模高等学校に同時双方向型の授業や補習等を配信
- ★ 小規模中学校の免許教科外指導に対する遠隔授業システムを活用した支援の研究
- ・ 教員のICT活用指導力向上のための体系的研修の実施、教員同士の学び合いや校内研修等の推進等



▲ 遠隔教育システムを活用した授業

■ 学校のICT環境の整備

- ・ 1人1台タブレット端末の運用等を支援するヘルプデスク機能の強化
- ★ アンケートシステムの整備による調査業務の効率化
- ★ 「情報モラル教育実践ハンドブック」に基づく情報モラル教育の取組強化

- ・ 学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」やデジタル教科書の効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（1人1台タブレット端末のさらなる活用）



▲ 「高知家まなびばこ」

創造性を育む教育の充実

■ プログラミング教育の推進

- ・ 情報教育推進リーダーを中心としたICTの活用及びプログラミング教育の普及〈小〉
- ・ 研修の実施や専門性を持った人材確保による情報科担当教員の指導力向上〈高等〉等



▲ 1人1台タブレット端末を活用したプログラミング学習

■ AI人材育成のための教育の推進

- ・ 高大連携によるデジタル分野の専門的な知識や理論、技術等を系統的に学習できる環境の整備 等

地域との連携・協働

- 行政・学校・地域の連携・協働により、各地域の特色を生かした教育の振興に向けた取組を推進します。
- 学校・家庭・地域が一体となって、地域全体で子どもたちを支え、見守り、育てる仕組みを構築するとともに、家庭の教育力の向上に向けた取組の充実を図ります。

■ 中山間地域における多様な教育機会の確保

- ・ 高等学校の魅力化に向けた取組の推進
- ・ 遠隔教育システムを活用した同時双方向型の授業や補習等の配信 等

■ 地域全体で子どもを見守り育てる取組の推進

＜地域学校協働本部のイメージ＞



民生・児童委員等の参画による厳しい環境にある子どもたちの見守り体制を強化した「高知県版地域学校協働本部」への展開

就学前教育の充実

- 全ての保育所・幼稚園等において、専門的で高度な知見に基づく質の高い教育・保育を受けることができる環境づくりを進めます。
- 乳幼児期における、よりよい親子関係の構築を図るため、親の子育て力を高めるための「親育ち支援」の取組の充実を図ります。

■ 保育所保育指針・幼稚園教育要領等に沿った指導方法の徹底

- ・ 幼保支援アドバイザー等による訪問指導、研修等を通じたガイドラインや園評価の手引きの活用促進、園内研修の充実 等

＜質の高い教育・保育を受けることができる環境づくり＞

幼保支援アドバイザー等による訪問指導

組織マネジメント力の強化
・ 園評価の手引きの活用具体的な指導方法の徹底
・ ガイドラインの活用

保育所・幼稚園等

保育者の資質・指導力の向上
・ 研修内容の充実

保幼小の円滑な接続の推進
・ 接続カリキュラムの実践・改善



小学校

生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保



- 生涯学習・社会教育の推進、多様なニーズに対応した教育機会の提供など、誰もが生涯にわたって学び続けられる環境やスポーツ等に親しめる環境の整備を推進します。
- 自然災害や事故、犯罪等から子どもたちの命を守り抜くため、学校等における安全教育等の充実を図るとともに、安全・安心で快適な教育環境の整備を推進します。

- 生涯にわたって学び地域社会に生かす環境づくり
- 私立学校の振興
- 大学の魅力向上
- 文化芸術の振興と文化財の保存・活用
- スポーツの振興
- 児童生徒等の安全・安心の確保



▲オーペビア高知図書館



▲土佐まるごとビジネスアカデミー



▲防災フィールドワーク



▲夜間中学 生徒募集のポスター



▲スポーツ体験イベント



▲自転車ヘルメット着用の啓発活動



2つの横断的取組

横断的取組 1 不登校への総合的な対応

- 不登校の未然防止と早期発見・早期対応を徹底するため、校内支援会の取組の充実など、組織的な対応を強化します。
- 不登校児童生徒への抜かりのない適切な支援を行えるよう、学校、教育支援センター、心の教育センターの連携を強化し、関係機関等を含めた重層的な支援体制を構築します。

不登校の未然防止と初期対応

学校

- 魅力ある学校づくりの推進
- 教職員の研修の充実
- ★保幼小中連携モデル地域実践研究
- 保育所・幼稚園等における取組の充実

小学校への指導支援の引き継ぎ

SC: スクールカウンセラー
SSW: スクールソーシャルワーカー

校内適応指導教室の拡充 (モデル校)

校内支援会の強化

SC、SSWの配置

心の教育センター

心の教育センターの機能強化

SC、SSWの支援力の向上

社会的自立に向けた支援の充実

教育支援センター

- 教育支援センターの機能強化

福祉・医療機関等

- 福祉・医療機関等と学校等との連携

その他

- ・経済的支援や教育費の負担軽減
- ・「若者サポートステーション」を核とした修学・就労支援 等

横断的取組 2 学校における働き方改革の推進

- 教員の肉体的、精神的な負担を軽減し、日々の生活の質を向上させます。
- 教員が子どもと向き合う時間を確保し、限られた時間の中で最大の教育効果を発揮することができるよう、市町村教育委員会や学校等と連携し、業務の効率化・削減や外部人材の活用など、学校における働き方改革を加速させます。

- 学校組織マネジメント力の向上と教職員の意識改革
 - 業務の効率化・削減
 - 専門スタッフ・外部人材の活用
- ・デジタル技術の活用による業務負担の軽減 等

学校の取組への支援

管理職を中心とした組織的なマネジメントの推進



子どもたちが社会に出て自らの夢や志を実現していくための基礎となる、**基礎的・基本的な知識・技能**やこれらを活用して課題を解決するための**思考力・判断力・表現力**、生涯にわたって**学び続ける意欲**を育みます。

<測定指標>

①小・中学校

●全国学力・学習状況調査において、

- ・小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す
中学校の学力は全国平均以上に引き上げる
- ・小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする

▶ R3年度全国学力・学習状況調査結果 (数値は全国平均正答率との差)
小学校: 国語 +2.2 算数 +0.6 中学校: 国語 -1.1 数学 -2.6

②高等学校

●高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合^{*}を10%以下とする

▶ R3年度学力定着把握検査結果 (高校2年生 1月) D3層の生徒の割合: 19.1%
(数値は学力定着把握検査I (29校)の結果 その他の7校では別調査を実施) ^{*}学習内容が十分定着しておらず、進学や就職の際に困難が生じることが予想される生徒の割合

●高等学校卒業のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

▶ R2年度卒業生に占める進路未定者の割合: 4.6%



社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、**他者への思いやりや規範意識**、公共の精神などの**豊かな人間性・道徳性・社会性**を育みます。

<測定指標>

●児童生徒質問紙調査における道徳性等 (自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など) に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる

▶ R3年度全国学力・学習状況調査結果 (肯定的な回答をした児童生徒の割合 () は全国平均との差)
「自分には、よいところがあると思う」 小学校 77.9% (+1.0) 中学校 78.8% (+2.6)
「将来の夢や目標を持っている」 小学校 81.0% (+0.7) 中学校 72.9% (+4.3)
「人が困っているときは、進んで助けている」 小学校 89.4% (+0.7) 中学校 89.2% (+0.7)
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」 小学校 54.7% (+2.3) 中学校 50.3% (+6.5)

●生徒指導上の諸課題 (不登校、中途退学) の状況を全国平均まで改善させる

▶ R2年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果
・1,000人あたりの不登校児童生徒数: 小中25.2人(全国20.5人)、高校17.4人(全国13.9人) ・中途退学率: 1.4%(全国1.1%)
※ 不登校については、「横断的取組1 不登校への総合的な対応」の指標として、「1,000人あたりの新規不登校児童生徒数」「90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の関係機関等の相談や支援を受けている児童生徒の割合」「不登校児童生徒のうち、学校外の機関に通所して出席扱いとなった日数を除くと欠席日数が30日未満となる児童生徒の割合」「不登校児童生徒のうち、学校等の取組によって、同年度中に継続的に登校できるようになった児童生徒の割合」を設定



生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、**体力や健康的な生活習慣**を身につけさせます。

<測定指標>

●全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、 ・小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る

▶ R3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (数値はT得点 (全国平均=50))
小学校: 男子50.2 女子50.8、中学校: 男子50.7 女子50.4

^{*}総合評価: 体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価

・総合評価^{*}でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる

▶ R3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (数値は総合評価でDE群の児童生徒の割合 () は、県のH28~R1の平均値との差)
小学校: 男子35.8% (+4.3) 女子24.9% (+0.5)、中学校: 男子29.8% (+1.2) 女子15.4% (+1.2)



- 「第2期教育等の振興に関する施策の大綱 (第2次改訂版)」は、高知県総務部政策企画課ホームページからご覧いただけます。
- 大綱を踏まえて教育委員会が策定した「第3期高知県教育振興基本計画 (第2次改訂版)」は、高知県教育委員会事務局ホームページからご覧いただけます。



高知県 総務部 政策企画課
〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2-20
TEL:088-823-9563 FAX:088-823-9267
E-mail:111601@ken.pref.kochi.lg.jp

高知県教育委員会事務局 教育政策課
〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7-52
TEL:088-821-4731 FAX:088-821-4558
E-mail:310101@ken.pref.kochi.lg.jp



高知県は持続可能な開発目標 (SDGs) に
向け取り組んでいます。